

## 人生のプレゼント

---

香山 剛神父

最近、猫の話題がよく取り上げられことが多いと思いませんか。そこで実際にあった猫と人間の、いや人間と猫の関わりのお話を少しさせて下さい。

ある婦人の家には近所の飼い猫なのか、野良猫なのか分かりませんがよく勝手に出入りし、動き回っていたようでした。家の中に入ってきては夕食に準備していた食卓の焼き魚があつという間に奪われることや台所の窓の外に出していた一夜干しの魚を持って行かれることが続発してしていたのです。この女性の庭には釣瓶の付いた大きな井戸がありました。たまたま井戸の水を使うため中をのぞくと、あの悪さをする猫が落ち込んで水面でもがいているのではないですか。とっさに釣瓶を落とし引き揚げて助けました。その後、彼女が驚いたことですが、この猫は彼女の身の回りでは悩ませる行いをしなくなったのです。

不思議に思えるのは、人間だけではなく猫であっても感謝することを知っている事ではないでしょうか。

ところで、この婦人にも三十数年前に自身の命をかけた出来事が井戸と対面する形で起こっていたのです。彼女は十代の後半という若さで結婚し、旧家の大家族制の中で人間関係の厳しさに疲れ果て、逃れたい一心で命を絶つために井戸に向かう意を固めたのです。いざ飛び込もうとしたときに背中に背負っていた幼子である長女のあどけない顔を井戸の水面に垣間見た瞬間、この子のために死ぬわけにはいかないという強い思いがブレーキとなって死に向かわせる力が消え失せたのです。この直後に何故出会ったかは分かりませんが、主イエスの次のような御言葉が彼女の脳裏から離れなくなったのです。“信じて洗礼を受ける者は救われるが、信じない者は滅びの宣告を受ける。”(マルコ 16, 16) 彼女の時代はまだ文語のラゲ訳聖書の格調高いものだったことでしょう。

ある本の書評で、人間は運命すら変えられるという表現を見ましたが、もし彼女が、踏みとどまっていなかったら彼女の 8 人の子供も、その孫たちも、ひ孫もこの世にはいなかったと想像すると恐ろしい気がします。彼女は、ただ生き延びただけではなく、いつの日か主イエスに出会える希望を持ち続け子育てを終えた年齢なつてついにカトリック教会にたどり着き受洗の夢が実現されたのです。父である神が彼女にお与えになりたかつた人生のプレゼントは主イエスだつた事が分かりました。さあ私たちが天使と声を合わせて告げ知らせましょう！！

“私は、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなた方のために救い主がお生まれになつた” (ルカ 2, 10)

